

評価項目	調査項目	調査対象者	調査手段・方法	調査による結果	データ情報源
	(1)-3 参加の促進をどのようにしているか (1)-4 住民参加につき問題があれば、どのように対処しているか			<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプロジェクトの実施のためファシリテーションマニュアルを作成することが合意され、構成案が作成された(2004年年報、2005年1月)。 ・リスク管理ハンドブックと普及員フォローアップ研修マニュアルの作成も計画された(2004年年報、2005年1月)。 ・PaViDIA運営室が普及員を通して相談にのり、対処している。 	
(2)参加の促進	(2)-1 どのようなフォローアップがされているか。 (2)-2 リーダーはどのように選出しているか	長期専門家、C/P	・聞き取り調査	<ul style="list-style-type: none"> ・実績として問題があれば、普及員に対してフォローアップ研修を実施している。ファシリテーターである普及員の日頃のフォローを担当しているのは、郡ブロック普及員や普及担当オフィサーである。郡担当官との日常的な意見交換、プロジェクトの方向性の共有、普及員の現状理解、課題認識など、連携して取り組み、最終的には郡担当官だけである程度バックアップできる力量と役割認識と仕組みの形成が必要である。 ・リーダーの選出は投票で選ばれている。村落によって住民の代表制の高いリーダーが選ばれている。そのような場合は、住民参加がスムーズに促進される。 	報告書、聞き取り調査結果など
(3)参加者の属性	(3)-1 参加しているのはどのような人々か。参加していないのはどのような人々か	長期専門家、C/P	・既存資料、聞き取り調査	<ul style="list-style-type: none"> ・時々参加していない人は法事などの理由で参加していない。完全に参加していない人に対しては、特に何も言わないスタンス)。村落内でローカル資材などの貢献ができない人に関しては、相互扶助の形で自然な配慮でやりくりされている(7月前業務調整専門家への聞き取り)。 ・意思決定への女性の参加は低い。労務提供などの際には、女性が多く参加していることがある(現地調査結果)。 	報告書、聞き取り調査結果など
(4)参加の形態と深度	(4)-1 住民はどのように参加しているか (4)-2 住民参加の集会はどのくらいの頻度で開かれているか、どのくらいの出席者を得ているか	長期専門家、C/P	・既存資料、聞き取り調査	<ul style="list-style-type: none"> ・資金投入を前提とした参加であり、当初は村を挙げて参加し、実施にあたるが、運営管理となると、村落での結束力やリーダーのあり方により、住民の参加の継続が決まる。 ・2001年チョングェ郡8村で行われたパイロット・マイクロプロジェクトのモニタリング結果によれば、総会は1ヶ月に一度とほとんどの村落で回答がなされている。定期的な集会については、村落によって異なり、月に2回、週に2回と答えており、出席率については、村落によって異なり、当初は高い出席率であった村落も後に出席率が落ちていくケースや乾季に高い出席率である村落でも雨季になると落ちるケースなどさまざまである。(運営指導(計画打ち合わせ)調査報告書2003年5月)・インパクト調査結果によれば、80%以上参加した村が6割あり、特に運営管理がうまく行っている村落の参加率が高い。 	プロジェクト関連資料
	(4)-3 ルールは誰が決めるのか (4)-4 住民自身で地元のリソースは活用されているか			<ul style="list-style-type: none"> ・普及員に言ってガイドラインを示しており、村での自律的なルールは、村での解決に任せている(7月前業務調整専門家への聞き取り)。 ・組織の規範づくりは課題とされ、計画の実施を急ぐあまりにルールづくりが住民主体でつくられていないケースが多い。 ・現金支出節約のため可能な限り村落レベルで安く調達するよう工夫がなされている。 ・インパクト調査結果によれば、自分たちの地元の資材や知識を活用したと9割が回答している。 	
(5)参加の障害	(5)-1 参加の障害はあるか	長期専門家、C/P	・既存資料、聞き取り調査	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会の内部の透明性が確保されていない場合、住民は不信感を抱き、参加しなくなることもある。 ・リーダー間(村長や運営委員会委員長など)の軋轢がある場合に住民の参加は停止する。 	報告書、聞き取り調査結果など
(6)住民の意識化	(6)-1 住民の意識化	長期専門家、C/P	・聞き取り調査	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の段階が重要であるため、住民同士がコミュニティのあり方やビジョンを確認し、プロジェクトの目的を理解することが肝要である。コミュニティの共益が確保されることにより、初めて個人の益が確保されることが理解されていない場合が多い。 	報告書、聞き取り調査結果など
(7)住民の組織化	(7)-1 住民の組織化はどのように行われているか	長期専門家、C/P	・聞き取り調査	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会の選出とサブコンポーネントの委員の選出を行う。組織化として時間を特に割いて組織の規範やルール作りを進めていない。 	聞き取り調査結果など

評価項目	調査項目	調査対象者	調査手段・方法	調査による結果	データ・情報源
(8) 地方政府、中央政府レベルとの関係性	(8)-1 地方、中央政府レベルとの関係性においてどのように実施されているか	長期専門家、C/P	・既存資料、聞き取り調査	・プロジェクト活動を農業協同組合省の業務に組み込むために、マイクロプロジェクトの資金の管理体制について省の役割の明確化を行った(2004年年報、2005年1月)。	報告書、聞き取り調査結果など
(9) 関係者間のパートナーシップ	(9)-1 関係者間のパートナーシップは構築されているか	長期専門家、C/P	・既存資料、聞き取り調査	・関係者間のパートナーシップとしては、住民と運営委員会と普及員とのパートナーシップが計画、実施の際に構築されている。モニタリングの際には関係性が薄いのが課題である。普及員が村落に交通手段が限られていることが原因でもある。	プロジェクト関連資料
(10) 自立発展性の確保	(10)-1 自立発展性の確保につながる取り組みはなされているか	長期専門家、C/P	・既存資料、聞き取り調査	・活動の中には、小規模インフラ(農業倉庫、集会場など)と収入創出活動があり、収入創出事業からランニングコストを捻出するようにしている。減価償却も考えてプロジェクトを作るように指示している(専門家への聞き取り2005年6月)。	報告書、聞き取り調査結果など
(11) モニタリング	(11)-1 モニタリングがどのように行われているか	長期専門家、C/P	・既存資料、聞き取り調査	・個別専門家によるパイロットマイクロプロジェクトの実施村でモニタリングが実施された(2003年8月プロジェクト事業進捗報告書)。 ・3つのモニタリングを実施。ファシリテーターの普及員と実施者である村民が共に行う参加型モニタリング、キャンプ普及員(CEO)によるモニタリング、個人を対象としたモニタリング(Individual Monitoring)が実施された(2004年年報、2005年1月)。 ・2004年度のプロジェクトの成果品として Participatory Monitoring Sheet, Community Based Monitoring Sheet, Individual Based Monitoring Sheet が作成された(2004年年報、2005年1月)。 ・モニタリングを原資投入とセットにし、強制的にモニタリングシートの提出をさせるような仕組みを取ることにした(2004年年報、2005年1月)。 ・住民参加専門家がモニタリング制度を確立していく(2005年4月本部担当者のヒアリング)。 ・普及員の燃料代等経費がかかるため、外部資金に頼らず出来るだけ安価でかつ有意義な方法を住民と共に作り出す必要がある。	プロジェクト関連資料
	(11)-2 モニタリング結果がどのように事業にフィードバックされているか			・参加型モニタリングの集計・分析から、普及員研修の改善点の抽出が行われた。普及員研修に結果をフィードバックした(2003年8月プロジェクト事業進捗報告書)。 ・フィードバックすべき事項をすぐに次の研修事項に入れる迅速な対応が必要とされる(現地調査結果)。	報告書、聞き取り調査結果など

IV. インパクト 住民参加を通し、関係者間にどのような変化が起きているか

評価項目	調査項目	調査対象者	調査手段・方法	調査による結果	データ・情報源
(1) 住民の(個人・家庭・コミュニティレベル)意識/知識・技術/行動への影響	(1)-1 住民の(個人・世帯・コミュニティレベル)意識/知識・技術/行動の変化はどのようなものか。	長期専門家、住民	・資料や報告書や聞き取り調査	・住民にとっては、マイクロプロジェクトを通して人々が協力して問題解決に向けて動き出し、計画に参加しオーナーシップを持つようになった。自分たちにもできるという自信を持ち、自分たちのプロジェクトを誇りに思うようになった。 ・製粉機が導入され、粉引きの時間が軽減され、井戸ができ、水汲みの時間が節約されるようになったなど人々の時間が節約されるようになった。また、労働が軽減されたことにより、病気や下痢が減少したと報告される。実施によるインパクト外として生活の改善にも寄与したことが普及員から指摘された。 ・コミュニティの基金を取り扱う経験が不足している住民にとっては、財政的管理は一連の財務管理の指導を普及員から受けていても、困難さが伴う。お金の使い方についての合意の住民間の調整が課題である。財務管理に関する住民の合意がなされずに、透明性が確保できない場合には、リーダーや運営委員会に対する不信が生じ、	報告書、記録、報告会資料、聞き取り調査結果

評価項目	調査項目	調査対象者	調査手段・方法	調査による結果	データ・情報源
	(1)-2 住民の（個人・世帯・コミュニティレベル）コミュニティ開発/地域開発に対する意識/知識・技術/行動レベルでの変化はどのようなものか			<p>想定以外の負のインパクトがもたらされることになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政サービスがこれまで村に及ぶことが少なく、農村総合開発のような普及活動があることを知り、住民と普及員との関係が良好になった。 ・インパクト調査結果では、マイクロプロジェクトの活動の経験を基に新しい活動する積極的志向を得ていると半数が回答。 ・インパクト調査結果によると、地方政府との交渉能力が向上したかどうかについては、半数ができていないと回答。 	
(2) C/P の意識/知識・技術/行動への影響	(2)-1 C/P の意識/知識・技術/行動の変化はどのようなものか	長期専門家、住民	・報告書、聞き取り調査	・普及員にとってこれまで普及活動になかった地域開発的な活動のファシリテーションをすることになり、さまざまな研修機会を得て、能力向上と実施の経験による知験を得ている。	聞き取り調査結果

添付資料 2：他ドナーの住民参加アプローチの取り組み概要

LATIN Sukabumi

情報入手日:2005/07/12(報告:LC)

No. 1	現地名: LATIN(Lembaga Alam Tropika Indonesia) Sukabumi 日本語名: インドネシア熱帯環境の会 (LATIN) スカブミ支所
設立: LATIN Sukabumi は 2000 年に設立 (LATIN 本部設立は 1989 年)	連携する省庁: 旧林業公社、林業省
対象地域: 拡張以前に公園外とされ、旧林業公社 が管理していた村落などでプロジェクトを持つ。	職員: 正規職員 9 人
使命: 森林に関する良い統治のプロセスを強化すること。社会林業(CF)の考え方を森林のマネジメン トの重要なコンセプトとして実践すること。	
目的: 1. 森林運営における協働の大切さについての関係者の理解を確立すること 2. 実施を行い、協働の森林運営のモデルを確立すること	
資金源: DFID など (自己財源なし)	
活動: 1. 村の関係者に対して社会化を行うこと 2. 村落レベルにおける組織化を強化すること 3. 境界線のマッピングと関係者の役割分析 4. 自然資源の潜在性の分析 5. 主な関係者間における話し合い 6. 話し合いに基づく植林の実施 現在、グヌン・ハリム・サラク国立公園内では新しいプロジェクトを開始していない。これまで着手してきたサイトは、すべて拡張以前、公園外とされていた林業公社が管理する地域に位置する。ここで社会林業のプロジェクトを開始してきている。当初の活動の焦点は、村落協同体と旧林業公社との間に生じる諸問題の解決の仲介であった。2003 年の公園拡張以後は、これらのプロジェクトサイトのいくつかの村は、新しい公園敷地内となった。	
住民参加の役割: 社会林業の活動を通して、自然保護に関する認識が高まり、森林の大切さを理解し、ひいては経済的な状況も結果として良くなる。社会林業が土地のマネジメントに関するコンフリクトの代替的な解決ともなりうる。	
教訓: 関係者間の異なる利害を調整するコミュニケーションとコンセプトの共有がない場合は、協働は難しい。	
保全型集落モデルが成功するための最低必須条件: 1. 関係者間の協働が重要であることを共通理解として持つこと 2. 関係者間で共通の目的を持つこと 3. 関係者のニーズ充足のためのファシリテーションとそのためプロセスを持つこと 4. 関係者の能力向上のためのトレーニング 5. 協働により成功した事例の比較を生かすこと	
活動のポイントとキーワード: 社会林業、関係者の協働、森林に関する良い統治、コンフリクトマネジメント	

RMI

情報入手日:2005/07/19

No. 2	現地名: 英語名:	Rimbawan Muda Indonesia The Indonesian Institute for Forest and Environment
設立: 1992年に設立		連携する省庁: 環境省、林業省、インドネシア植物園など
連絡先: Jalan Sempur No 55, Bogor 16154, Indonesia Tel. +62-251-320253, 311097 Fax. +62-251-320253 Email. rmibogor@indo.net.id サイト http://www.rmibogor.org/		コンタクトパーソン: Mr. Andri Santosa, Executive Director Mr. Arief Rachman, Vice Executive Director
対象地域: ボゴール、シアンジュール、スカブミ		職員: 職員 32人
<p>目的:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 土地や自然資源に関する交渉の能力と公平で民主的な維持管理を強化するために、住民男女を能力強化すること。 2. 自然資源に関する人々の権利を尊重した意思決定がなされるように意思決定者の考え方や行動を変えていくために、意識を向上する 		
<p>資金源:</p> <p>ニュージーランド政府、Hanns Seidel Foundation, トヨタ財団、熱帯雨林同盟などからの資金、または、個人や団体などによる寄付、自己財源は限られており、環境教育センターの研修実施による収益、環境にやさしい製品の販売からの収益など。メンバーシップ制度はない。</p>		
<p>ネットワーク:</p> <p>Bioforum¹、環境教育ネットワーク(JPL)、Forest Watch、インドネシア・エコツーリズム・ソサイエティ(MEI)、Community Forum of Community-based Forestry (FKKM)、CEEPI(Committee for Environment Education Project in Indonesia)、Sawit Watch²、KPA(Consortium for Agrarian Reform)、Working Group of Participatory Mapping (JKPP)、Communication Forum of Community-based Forestry (FKKM)など</p>		
<p>活動:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. RMIの政策、運営、資源が自立的に発展できるように、自己財源で、情報サービスとしての図書館の運営と環境教育センターの学習メディアの開発などを行っている。 2. ハリムン生態系地域における慣習的組織や制度を基礎とした自然資源運営を強化する。 3. ハリムン生態系地域や都市部における自然環境教育を強化し、エコツーリズムを実施している。 4. ハリムン生態系地域における参加型行動リサーチに人々がイニシャティブを持てるように促進している。 5. 自然資源管理制度において男女の視点を政府が認識を持つように一般的な支持を確保する。 6. 環境に関するラジオ番組の放送(Siaran Khusus Lingkyungan Sekitar)。 7. 環境にやさしい資源から作った製品についてのキャンペーンの実施 8. 共同体を基礎とした伝統的農業システムに関する文書化 		
<p>活動のポイントとキーワード:</p> <p>森林と環境に関するネットワーク、自然資源管理における男女の視点</p>		

¹ 生態系保全のためのインドネシアの65のNGOから成る連合

² インドネシアの椰子油のプランテーションをモニターするためのNGO連合

PKPM

情報入手日：2005/07/20-22

No. 3	プロジェクト名： JICA 市民社会参加によるコミュニティ開発技術協力プロジェクト	
期間： 2004年1月から2006年12月	実施機関： インドネシア国国家開発計画庁(BAPPENAS)	
対象地域： 東部インドネシア 10州 ³	連携する省庁： 関連中央政府、地方政府	
プロジェクト上位目標： 「コミュニティのためのコミュニティ開発をコミュニティが考える」ことを促すための支援を行う。		
目標： 1. コミュニティ開発における参加型開発手法の改善 2. JICA-CEP およびインドネシア政府が実施しているコミュニティ開発事業をもとにした「コミュニティ開発事業モデル」の開発 3. コミュニティ開発事業のグッドプラクティス(成功事例)の蓄積を通じ「コミュニティ開発」におけるBAPPENAS および関係機関、パイロット事業対象地域の地方政府、プロジェクト関連住民組織との連携が改善される。		
背景： 1. 近年、インドネシアの開発分野における NGO の活躍が顕著に増えている。インドネシア政府でも国家開発政策の一環として「NGO 組織強化プログラム」、「住民組織強化プログラム」、「貧困層エンパワーメントプログラム」を国家開発の重点プログラムの一つとして定めており、NGO を主とする住民組織の強化は国家的課題となっている。 2. 日本政府も開発協力における NGO の参加を促進しており、JICA-CEP、開発パートナー事業などのプログラムを実施し、開発協力における公的機関の担い手として活動する機会を拡充強化している。 3. インドネシア国家開発計画庁ではこれら日本の取り組みに注目し、類似のプログラムの実施を通じてコミュニティ開発に関わるステークホルダー(NGO、NPO、行政官)の住民組織と政府の対話の実現、開発プログラムへの住民参加の促進、ステークホルダー間の連携強化のためのシステム開発や構築のためのノウハウと能力向上を行うこととなった。		
期待される成果： 1. BAPPENAS および関連中央行政機関、地方政府、CBO のコミュニティ開発における参加型開発手法が改善される。 2. CEP およびインドネシア政府が実施しているコミュニティ開発事業をもとに、「コミュニティ開発事業モデル」が試作され、共同で実施される。 3. インドネシア国東部 10州におけるコミュニティ開発事業のグッドプラクティスが蓄積される。		
全体的な活動： PKPM の活動は、トレーニングプログラム、グッドプラクティス調査、パイロットプロジェクトの 3つのコンポーネントから成り立っている。		
調査団が訪問した活動： 南スラウェシ州ゴワ県マニンボハイ村のコミュニティ活動を見学。住民の自主的な計画で、土砂崩れで崩壊した橋脚を自分たちで修復し、近くの市街地との流通経路を確保している。ファシリテーターは、NGO の所属者であり、定期的に対象村を訪れ、村人に対しては、自主的な活動を勧めている。特に資金的な支援はプロジェクトからはない。		
住民参加のアプローチ： コミュニティへの働きかけ：住民主体の組織作りを支援できるファシリテーターを育成するにより、そのファシリテーターが研修で得たノウハウを実際にコミュニティで実践することにより、コミュニティのエンパワメントに重点をおいた活動を広く浸透させる。		
活動のポイントとキーワード： コミュニティの持つ潜在性の発見、主体的計画づくりと実施、パートナーシップ		

³ 南スラウェシ州、中スラウェシ州、南東スラウェシ州、北スラウェシ州、ゴロンタロ州、マルク州、北マルク州、パプア州、西ヌサテンガラ州、東ヌサテンガラ州の 10 州

Aid et Action

情報入手日:2005/9/7 および 2005/9/8

No. 4	機関名: Aid et Action (フランスの NGO)
設立背景: 旧宗主国において活動を展開しており、ニジェールでは、1988年に設立。	連携する省庁: 基礎教育・識字省
対象地域: ティラベリ州、ドッソ州、ザンデル州、マガリア州など	連携するパートナー: AFD(フランス開発公社)やデンマークの NGO など
活動実績: 教育へのアクセスの向上を目的として学校施設の建築や教師の質の向上の研修を行った。近年は、教育制度の運営についても支援し、アフリカ化(Africanization)を進めている。	
<p>今後5年間の目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ネットワークの拡大により教育へのアクセスを拡充する 300校の COGES で学校計画を実施しているが、今後、1000校までに増やしていく予定。 2. 教師の質 教師の質の向上のために、経験の蓄積、教師のトレーニング、コミュニケーションユニットを設立。近隣諸国との交流を行っている。 	
課題: 現在の課題は、教育へのアクセスの向上、貧困の緩和、教育制度の強化、カリキュラムの改善、社会的障壁の除去である。	
<p>支援の終了とその後の持続性の確保:</p> <p>行政の協力を経て今後も継続し、持続性を確保したいと考えている。具体的な期限やプランはないが、組織の意識化を強化していきたい。</p>	
<p>調査団訪問地: Aide et Action ドゴンドッチ事務所とドゴンドッチ市内小学校3校を訪問。</p> <p><COGES 活動> COGES は住民総会による選挙によって設立された。意識化、学校(教室内の椅子等を含む)の修復、教材の配布、教師の質の向上の活動、井戸整備などを行っている。学校の壁、トイレ、教室等の修繕は NGO からの資金提供がなされ、コミュニティが資金・資材・労働の提供を行い、実施された。修繕後の運営管理は COGES によって行われる。</p> <p><COGES 後の変化> 教師レベルでは、保護者会と教師と生徒とのコミュニケーションがよくなり、保護者会レベルでは、住民に対して教育の意識の改善を行うように働きかけた。積極的な COGES の活動により、教育行政もこれに応じて共に活動するようになった。すべての COGES 校で女子の就学率が向上したが、遊牧民の地域であるドッソ州の Free School (移動学校) 43校では、女子の就学率が特に向上した。COGES により学校に関する問題の解決が早くなった。</p> <p><COGES が始まってからの変化> 学校建設の際に、COGES が業者を選定するようになった。</p>	
<p>JICA の「みんなの学校プロジェクト」との相違点と類似点:</p> <p>Aide et Action の方が、JICA より先に活動を行っていたため、JICA の「みんなの学校プロジェクト」は Aide et Action のフィールドの経験を学び、同じ関心を共有してきている。ローカル人材の ONEN を活用しており、この中から JICA はいろいろな教訓を学んだと考えられる。違いは、カリキュラムの改善、教師の質的向上を含む児童の教育環境を重要視し、柔軟性のあるものを認め、持続性を重んじている。保護者会は識字教育に焦点を置いている。アニメーター(ローカル NGO スタッフ)による COGES や保護者会への研修を行っている。</p>	
<p>住民参加の視点からの教訓:</p> <p>参加を促進する際には、意思疎通が重要であり、話し合い、また、女性を含めて行うことが重要である。実際は、土砂や資材の提供ができる人は、経済的に良い条件の人たちで、これらの資材を調達する交通手段の関係もあり、貧しいものには、参加が困難である点も留意しなければならない。雨季における道が悪い時期なども参加は難しい。また、収穫が少ない年は特に参加が困難。</p>	
<p>活動のポイントとキーワード:</p> <p>COGES 活動、カリキュラムの改善、保護者会の識字教育、教育へのアクセスの向上</p>	

Concern⁴

情報入手日:2005/09/7 および:2005/09/9

No. 5	プロジェクト名: ニジェール教育支援プログラム 英語名: Niger Education Support Programme (NESP)
期間: 2004年1月-2009年1月	連携する省庁:基礎教育・識字省
連携するパートナー: ONEN(教育革新教育者会)、ROSEN(万人のための教育実現のための啓発、ロビーグループ)などの NGO	
対象地域: タウア州(最初の3年間)と他の州(4年目以降)	対象となる裨益者: 学齢期の児童、94校(初年)
プロジェクト目標: 「国家教育開発10ヵ年計画2002年-2012年」(PDDE)のもとに、初等教育へ男女の児童がアクセスし、就学率が向上し、質の高い教育を受けられるようにする。	
活動: 1. 児童の学校へのアクセスの向上 学校施設やトイレなどの建設、啓発活動など 2. 教師の質の改善 教師に対する支援、研修の実施、教師のためのリソースセンターの建設など 3. コミュニティの学校教育運営への参加の促進 保護者会の活動強化のためのワークショップの実施 4. タウア州の教育行政の制度強化の改善 教育行政の強化計画をコンサルタントとともに立案。	
JICAの「みんなの学校プロジェクト」との相違点と類似点: Concernは保護者会の強化と教師研修に力を入れている。JICAの無償小学校教室建設計画のソフトコンポーネントであるCOSAGEに類似している。アニメーターが保護者会の強化活動を行い、90%以上の識字率を上げている。アニメーターが研修を受け、COGESメンバーに対して研修をさらに実施している。	
将来的な展望: 近年の不作もあり、今年に入って6ヶ月間の栄養強化のための緊急支援プログラムを行っている。この期間のみの緊急支援なので、今後これらの栄養強化活動を教育プログラムの活動の一環としてCOGES活動の中に組み入れたいとしている。	
調査団訪問地: タウア県アダナガルト村(車でタウア市から約30分) <COGES設立後の変化> 学校が設立された後、学校をどのように向上させるかみんなの問題として考えた。教師や保護者が研修を受けた。COGESメンバーに対して学校運営、財務に関する具体的な研修も実施された。 <COGESの活動> 学校の清掃や整理などをしたり、学校までの道を作ったりした。学校に水がないので、つぼを調達し、手が洗えるようにした。毎月1回会議を行っている。参加者は、COGES、保護者会、保護者を中心に、多い時は100名程度集まる。女性の参加も多い。 <今後の活動の抱負> 学校の周りに壁を作りたい。また、学校が閉まっている間にも集まれるよう、コミュニティ集会所が必要である。健康プログラムと識字のキャンペーンプログラムがあった方がよいと考えている。 <共同体活動> シニアの組織、女性組織、青年組織、農民組織、水委員会などがあり、それぞれの活動を行っている。例としては、水の問題が深刻であったので、1年前にみんなでお金を出し合って、ニアメから専門家を呼び、深井戸をつくった。	
住民参加の観点からの特徴: ・住民による選挙の際に、少数部族があらかじめ排除されないように配慮することが必要。 ・古い保護者会をそのままCOGESのメンバーとすると運営が難しくなるケースがある。新しい学校の場合は、新しい保護者会ができて、機能しやすい。	
活動のポイントとキーワード: 保護者会活動、権利に基づくアプローチと啓発活動、栄養強化プログラム	

⁴ アイルランドの NGO

ZAMSIF

情報入手日:2005/09/26-27

No. 6	プロジェクト名: ザンビア社会開発基金 Zambia Social Investment Fund (ZAMSIF)
期間: 2000年1月から2010年1月	実施機関: 財務・国家計画省
対象地域: 全国における72の郡	連携する省庁: 関連する中央政府、地方政府など
プロジェクト目標: ・コミュニティと特定の脆弱層に対する質の高い持続的な社会サービスの確保 ・地方政府のキャパシティビルディングの向上 ・政策決定に必要とされる貧困と社会条件に関する情報を提供する能力の強化	
プロジェクトの背景: 貧困削減と地方分権化を進めるザンビア政府の政策を支援するプログラムとしての位置づけにある。	
全体的な活動: 1. コミュニティ開発基金(CIF) コミュニティを中心にプロジェクトを提案し、計画し、資金を立て、申請を行い、技術的なフィージビリティの調査が行われる。基金の投入の認可がおりたら、郡とZAMSIFの担当からの支援により、プロジェクトの実施が行われる。教育、保健、給水・衛生、交通運輸、環境・自然資源、ジェンダー、HIV/AIDS、孤児・脆弱層支援などの分野がプロジェクトとして認められており、必要に応じた地域の設定(必ずしも村落単位とは限らない)で実施される。 2. 郡開発基金(DIF) 郡の職員の能力向上のために基金が設けられ、行政能力の向上が図られる。 3. 貧困のモニタリングと分析コンポーネント 政策立案に関わる活動の一環として、貧困のモニタリングが行われる。	
各関連機関との連携: 学校やクリニックを建設する際には、必要な資機材の投入とともに、教育省や保健省と取り決めを交わし、必要とされる職員が配置されるようになっている。	
住民からの申請と採択のプロセス: ・住民が給水や衛生などを必要とした場合、技術の専門職員を派遣し、コンサルテーションをしている。 ・各レベルの地域開発計画や各セクターの計画や郡レベルの優先課題、コミュニティにおける優先ニーズ、貧困層や脆弱層に対する恩恵、村民による維持管理とコストの負担に対するコミットメントなど採用基準があり、技術的適合性についても検討されたあと、採択される。	
調査団が訪問した活動: 1. 地域医療のためのクリニック(ルサカから27km) ・一時的な隔離室や待合室や病室などとして機能するシェルターやトイレや焼却所やクリニックなどの建設、機材などに6万ドルの予算が使われ、住民が提供できる砂、資材も提供された。プロジェクト開始時に今後生じるとされる維持管理の費用の負担がなされた。建設後、保健省の4人の職員が派遣され、建設された宿舎に住み、24時間体制で対応できるようになっている。 2. 農村道路(ルサカから約40-50km) ・14.5km区間の農村道路が、排水が悪いため雨期に水没するので、雨期に孤立する地域における道路を整備する事業。技術をもった労働者は賃金労働者として雇用される。非技術労働者は地域の道路整備のために動員され、道普請を行う。シャベルなどは供与され、完成後の維持管理に使われる。	
住民参加の観点からの特徴: ・社会的弱者(エイズ感染者世帯、孤児、貧困世帯、障害者世帯)や女性などの参加を促進するように意識化を促進している。これらの住民参加の有無が、申請の採択の基準となっており、また、研修やモニタリングなどの項目に入っている。また、モニタリングで運営や管理が適正に行われていないと判断された場合は、郡レベルでの調整があり、次回の申請が受理されにくい評価制度になっている。	
活動のポイントとキーワード: 各機関との協働、住民参加、持続的開発、地域における社会サービスの拡大	

添付資料 3:住民参加の効果を測る調査の実施概要と調査結果

A) ニジェールの事例

住民参加の効果を測る調査の実施と調査結果

I. 住民参加の効果を測る調査の目的

- 1) 住民参加のアプローチを取り入れているニジェール住民参画型学校運営改善計画における住民参加の役割とインパクトを確認する。
- 2) 住民参加やエンパワメントを評価する際に、必要な視点や手法について取りまとめることが本調査の目的の一つでもあり、その試みを行い、最後の取りまとめの際に必要な提言を行う。

II. 住民参加の効果を測る調査の実施の意義

- 1) 今回のテーマ評価では、プロジェクトへのフィードバックが一つの役割でもあり、住民参加の効果を測る調査の結果の記録を残すことはその役割を満たすことになる。
- 2) JICA の案件でも住民参加の効果を測る調査を実施したものは少なく、本件でエンパワメント調査を含む住民参加の効果を測る調査を行うことは、事例としての意義がある。
- 3) 最小限に絞ったサンプル数と調査項目により、簡易迅速型の住民参加の効果を測る調査を実施し、その実施の有効性を見る。

III. 住民参加の効果を測る調査の全体概要

1) 方法

口述聞き取りによるアンケート票回答方式

2) 対象者

対象者は COGES 活動をおこなっている 6 村落における以下の 2 グループである¹

- ・保護者会代表 COGES 委員 6 人
- ・COGES に活動に参加している住民 6 人

3) 実施者

ローカルコンサルタントが住民参加の効果を測る調査を実施した。

4) 使用言語

聞き取りの際の使用言語は、タウア語。アンケート調査票は英文にて用意。必要に応じて仏語訳をローカルコンサルタントが用意。最終成果のアンケート回答票とデータシートと結果とりまとめは英語による記述で成果品を提出。調査結果分析は本邦コンサルタントが行った。

IV. 実施方法

質問項目はなるべく簡潔にし、回答は定量的に答えられるように 5 段階でレーティングした。また、対象となる COGES の基本情報も別シートを用いて収集した。聞き取りを行った際には、委託したローカル調査員が、気づきや発見などの所感、大切と思われる村人の自由意見などを書き残すようにし、全体的な状況の把握に寄与するようにした。

V. 調査項目

調査項目は、民主的な選挙、学校活動計画、教育に対する意識の変化、達成度、コミュニティ再生・発展への寄与などを大項目とし、以下のような設問を用意した。

1. **【基本調査情報】** 各調査対象村落において学校運営関係の活動状況についての基本情報をまず収集した。

1) 民主的選挙	民主的選挙への住民の参加率、選挙への女性の参加率、選挙の候補者の演説の分かりやすさ、選挙形態と投票のしやすさと匿名性
2) COGES 活動	COGES 会議でのリーダーシップ、COGES 委員の住民の声を聞く姿勢、COGES 会議での COGES 委員の意見のしやすさ、COGES 委員同士の協力精神、住民が得ている COGES に関する情報
3) 学校活動計画	学校活動計画の各活動への住民の参加状況 学校活動計画におけるリーダーシップ
4) 意見など	インタビューを通しての質問者のコメントと意見

2. 【質問調査項目】

〈民主的選挙〉

1. 新しい選挙により、COGES や学校について関心は深まったか。
2. 選挙を通して、COGES の目的をよく知るようになったか。
3. 新しい COGES メンバーの選出により、COGES 委員への信頼度は増したか。
4. 新しい COGES メンバーを通して、学校や COGES 活動への意見を述べられるようになったか。

〈学校活動計画〉

5. みんなが参加して活動計画を立て、実施したことにより、みんなの学校としての意識は高まったか。
6. 自主的に学校活動のために寄付を行って、みんなの学校活動計画に対する関与の意識は深まったか。

〈教育への意識の変化〉

7. 学校教育の重要性に対する理解は高まったか。
8. 女子教育に対する意識は変化したか。
9. 先生への信頼は高まったか。
10. 学校教育に対する満足の度合いは向上したか。

〈達成度〉

11. 「みんなの学校づくり」のビジョンを共有することができたか。
12. どのくらい「みんなの学校づくり」に貢献できたか。
13. さまざまな参加に対して自信を持つことができるようになったか。

〈コミュニティ再生・発展への寄与〉

14. 協力すれば、身近な問題を自分たちで解決することができるかと積極的になれるようになったか。
15. 学校以外のコミュニティの問題についても、住民間で話し合っ解決するようになったか。
16. 今後、コミュニティのために、行政や学校など諸機関と交渉するような能力が養われたか。
17. コミュニティ開発のために必要な意識、知識、技術といった能力が COGES 活動を通して養われたか。
18. コミュニティのためにリーダーシップをとっていく人材の育成に寄与したか。

VI. 調査結果

【調査票回答者：住民 36 名、COGES 委員 36 名、合計 72 名の回答者】

村落基本情報の調査結果では、6 村落中、1 村落のみが従来の伝統的権力に影響されて民主的な選挙が実施されておらず、後の COGES の活動に影響したケースであるが、他の 5 村落は、おおむね各活動が順調になされていたことが判明した。

住民からの回答の分析結果例²

I 【民主的選挙】

<p>01)COGES への関心</p>	<p>「民主選挙の実施により、COGES について関心は高まったか」の質問に対して「a. 非常に高まった」が 14 回答、「b. かなり高まった」が 21 回答を占め、全体回答が COGES への関心への高まりを示している。</p>																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a.非常に高まった</td> <td>14</td> <td>38.9%</td> </tr> <tr> <td>b.かなり高まった</td> <td>21</td> <td>58.3%</td> </tr> <tr> <td>c.それなりに高まった</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>d.それほど高まっていない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>e.高まっていない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a.非常に高まった	14	38.9%	b.かなり高まった	21	58.3%	c.それなりに高まった	1	2.8%	d.それほど高まっていない	0	0%	e.高まっていない	0	0%	合計	36	100%
	回答数	比率																				
a.非常に高まった	14	38.9%																				
b.かなり高まった	21	58.3%																				
c.それなりに高まった	1	2.8%																				
d.それほど高まっていない	0	0%																				
e.高まっていない	0	0%																				
合計	36	100%																				
<p>02) COGES の目的の理解</p>	<p>「選挙を通して、COGES の目的をよく知るようになったか」の質問に対して、「a. 非常によく知るようになった」としたものが 6 回答、「b. よく知るようになった」と回答したものが 18 回答である。「c. 知るようになった」が 8 回答。「d.ほとんど知らない」が 1 回答、「e.まったく知らない」が 2 回答あり、これは選挙が意図した通りに行われなかった村落の回答者の回答である。</p>																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a.非常によく知るようになった</td> <td>6</td> <td>16.7%</td> </tr> <tr> <td>b.よく知るようになった</td> <td>18</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>c.知るようになった</td> <td>8</td> <td>22.2%</td> </tr> <tr> <td>d.ほとんど知らなかった</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>e.まったく知らなかった</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a.非常によく知るようになった	6	16.7%	b.よく知るようになった	18	50.0%	c.知るようになった	8	22.2%	d.ほとんど知らなかった	1	2.8%	e.まったく知らなかった	2	5.6%	合計	36	100%
	回答数	比率																				
a.非常によく知るようになった	6	16.7%																				
b.よく知るようになった	18	50.0%																				
c.知るようになった	8	22.2%																				
d.ほとんど知らなかった	1	2.8%																				
e.まったく知らなかった	2	5.6%																				
合計	36	100%																				
<p>03)COGES に対する信頼</p>	<p>「新しい COGES メンバーの選出により、COGES 委員への信頼度は増したか」の質問に対して、「a. 非常に信頼している」としたものが 13 回答、「かなり信頼している」と回答したものが 18 回答である。「c. ある程度信頼している」が 2 回答。「d. 少し信頼している」が 3 回答あった。</p>																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 非常に信頼している</td> <td>13</td> <td>36.1%</td> </tr> <tr> <td>b. かなり信頼している</td> <td>18</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>c. ある程度信頼している</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>d. 少し信頼している</td> <td>3</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>e. まったく信頼していない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 非常に信頼している	13	36.1%	b. かなり信頼している	18	50.0%	c. ある程度信頼している	2	5.6%	d. 少し信頼している	3	8.3%	e. まったく信頼していない	0	0%	合計	36	100%
	回答数	比率																				
a. 非常に信頼している	13	36.1%																				
b. かなり信頼している	18	50.0%																				
c. ある程度信頼している	2	5.6%																				
d. 少し信頼している	3	8.3%																				
e. まったく信頼していない	0	0%																				
合計	36	100%																				

² 住民に対する調査と COGES に対する調査を行ったが、住民に対する調査では、住民の意思と参加によるインパクトがよく表れているので、解析の事例としてここでは取り上げる。

04) 会議などでの自由な意見の発話	「新しいCOGESメンバーを通して、学校やCOGES活動への意見を述べられるようになったか」の質問に対して、「a.非常によく述べられる」としたものが13回答、「b.よく述べられる」と回答したものが19回答である。「c.ある程度述べられる」が2回答。「d.述べるのは難しい」と「e.よく述べられない」が1回答ずつあった。ここからCOGESや学校に対して概ね自由な意見が発言できる状況が生まれていることが分かる。																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a.非常によく述べられる</td> <td>13</td> <td>36.0%</td> </tr> <tr> <td>b.よく述べられる</td> <td>19</td> <td>52.8%</td> </tr> <tr> <td>c.ある程度述べられる</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>d.述べるのは難しい</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>e.よく述べられない</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a.非常によく述べられる	13	36.0%	b.よく述べられる	19	52.8%	c.ある程度述べられる	2	5.6%	d.述べるのは難しい	1	2.8%	e.よく述べられない	1	2.8%	合計	36
	回答数	比率																			
a.非常によく述べられる	13	36.0%																			
b.よく述べられる	19	52.8%																			
c.ある程度述べられる	2	5.6%																			
d.述べるのは難しい	1	2.8%																			
e.よく述べられない	1	2.8%																			
合計	36	100.0%																			

II【学校活動計画】

05) みんなの学校としての意識の醸成とオーナーシップ	「みんなが参加して活動計画を立て、実施したことにより、みんなの学校としての意識は高まったか」の質問に対して、「a.非常に高まった」としたものが18回答、「b.かなり高まった」と回答したものが13回答である。「c.まあまあ高まった」が3回答。「d.すこし高まった」と「e.まったく高まっていない」が1回答ずつあった。みんなの学校としての意識の醸成とオーナーシップがほぼ得られていることが判明した。																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a.非常に高まった</td> <td>18</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>b.かなり高まった</td> <td>13</td> <td>36.1%</td> </tr> <tr> <td>c.まあまあ高まった</td> <td>3</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>d.すこし高まった</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>e.まったく高まっていない</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a.非常に高まった	18	50.0%	b.かなり高まった	13	36.1%	c.まあまあ高まった	3	8.3%	d.すこし高まった	1	2.8%	e.まったく高まっていない	1	2.8%	合計	36
	回答数	比率																			
a.非常に高まった	18	50.0%																			
b.かなり高まった	13	36.1%																			
c.まあまあ高まった	3	8.3%																			
d.すこし高まった	1	2.8%																			
e.まったく高まっていない	1	2.8%																			
合計	36	100%																			
06) 寄付による関与の意識の向上	「自主的に学校活動のために寄付を行って、みんなの学校活動計画に対する関与の意識は深まったか。」の質問に対して、「a.非常に高まった」としたものが18回答、「b.かなり高まった」と回答したものが13回答である。「c.まあまあ高まった」が3回答。「d.すこし高まった」と「e.まったく高まっていない」が1回答ずつあった。																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a.非常に意識は深まった</td> <td>14</td> <td>38.9%</td> </tr> <tr> <td>b.かなり意識は深まった</td> <td>17</td> <td>47.2%</td> </tr> <tr> <td>c.まあまあ意識が高まった</td> <td>3</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>d.ほとんど高まっていない</td> <td>2</td> <td>5.5%</td> </tr> <tr> <td>e.まったく高まっていない</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>99.9%³</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a.非常に意識は深まった	14	38.9%	b.かなり意識は深まった	17	47.2%	c.まあまあ意識が高まった	3	8.3%	d.ほとんど高まっていない	2	5.5%	e.まったく高まっていない	0	0	合計	36
	回答数	比率																			
a.非常に意識は深まった	14	38.9%																			
b.かなり意識は深まった	17	47.2%																			
c.まあまあ意識が高まった	3	8.3%																			
d.ほとんど高まっていない	2	5.5%																			
e.まったく高まっていない	0	0																			
合計	36	99.9% ³																			

III【学校教育に対する意識の変化】

³ 四捨五入による合計であるため。

<p>07)学校教育の重要性に対する理解</p>	<p>「学校教育の重要性に対する理解は高まったか」に対する回答として、「a. 非常に高まった」が 15 回答、「b. かなり高まった」が 20 回答を占め、「c. まあまあ高まった」が 1 回答あった。</p> <table border="1" data-bbox="491 271 1337 544"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 非常に高まった</td> <td>15</td> <td>41.6%</td> </tr> <tr> <td>b. かなり高まった</td> <td>20</td> <td>55.5%</td> </tr> <tr> <td>c. まあまあ高まった</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>d. すこし高まった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>e. まったく高まっていない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 非常に高まった	15	41.6%	b. かなり高まった	20	55.5%	c. まあまあ高まった	1	2.8%	d. すこし高まった	0	0%	e. まったく高まっていない	0	0%	合計	36	100%
	回答数	比率																				
a. 非常に高まった	15	41.6%																				
b. かなり高まった	20	55.5%																				
c. まあまあ高まった	1	2.8%																				
d. すこし高まった	0	0%																				
e. まったく高まっていない	0	0%																				
合計	36	100%																				
<p>08)女子教育に関する意識の変化</p>	<p>女子教育に関する意識の変化についての質問に対しては、「非常に意識が高まった」としたものが 17 回答で、「b. かなり高まった」と回答したものが 15 回答である。COGES 活動が具体的に展開されていない村落の回答者が「e. まったく高まっていない」と 2 回答ある。</p> <table border="1" data-bbox="491 707 1337 981"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 非常に意識が高まった</td> <td>17</td> <td>47.2%</td> </tr> <tr> <td>b. かなり高まった</td> <td>15</td> <td>41.6%</td> </tr> <tr> <td>c. まあまあ高まった</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>d. すこし高まった</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>e. まったく高まっていない</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 非常に意識が高まった	17	47.2%	b. かなり高まった	15	41.6%	c. まあまあ高まった	2	5.6%	d. すこし高まった	1	2.8%	e. まったく高まっていない	2	5.6%	合計	36	100%
	回答数	比率																				
a. 非常に意識が高まった	17	47.2%																				
b. かなり高まった	15	41.6%																				
c. まあまあ高まった	2	5.6%																				
d. すこし高まった	1	2.8%																				
e. まったく高まっていない	2	5.6%																				
合計	36	100%																				
<p>09)教師への信頼</p>	<p>「住民は教師を信頼するようになったか」の質問に対して、「a. 非常に信頼している」が 16 回答、「b. かなり信頼している」が 17 回答を占め、「c. まあまあ信頼している」が 2 回答あった。</p> <table border="1" data-bbox="491 1104 1337 1373"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 非常に信頼している</td> <td>16</td> <td>44.5%</td> </tr> <tr> <td>b. かなり信頼している</td> <td>17</td> <td>47.2%</td> </tr> <tr> <td>c. まあまあ信頼している</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>d. すこし信頼している</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>e. まったく信頼していない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100.1%⁴</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 非常に信頼している	16	44.5%	b. かなり信頼している	17	47.2%	c. まあまあ信頼している	2	5.6%	d. すこし信頼している	1	2.8%	e. まったく信頼していない	0	0%	合計	36	100.1% ⁴
	回答数	比率																				
a. 非常に信頼している	16	44.5%																				
b. かなり信頼している	17	47.2%																				
c. まあまあ信頼している	2	5.6%																				
d. すこし信頼している	1	2.8%																				
e. まったく信頼していない	0	0%																				
合計	36	100.1% ⁴																				
<p>10) 学校教育に関する満足度</p>	<p>学校教育に関する満足度については、「a. 非常に満足するようになった」としたものが 14 回答を占め、「b. かなり満足するようになった」と回答したものが 17 回答である。「c. まあまあ満足するようになった」と回答した者が 3 名いた。</p> <table border="1" data-bbox="491 1485 1337 1753"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 非常に満足するようになった</td> <td>14</td> <td>38.9%</td> </tr> <tr> <td>b. かなり満足するようになった</td> <td>17</td> <td>47.2%</td> </tr> <tr> <td>c. まあまあ満足するようになった</td> <td>3</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>d. ほとんど満足していない</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>e. まったく満足していない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 非常に満足するようになった	14	38.9%	b. かなり満足するようになった	17	47.2%	c. まあまあ満足するようになった	3	8.3%	d. ほとんど満足していない	2	5.6%	e. まったく満足していない	0	0%	合計	36	100%
	回答数	比率																				
a. 非常に満足するようになった	14	38.9%																				
b. かなり満足するようになった	17	47.2%																				
c. まあまあ満足するようになった	3	8.3%																				
d. ほとんど満足していない	2	5.6%																				
e. まったく満足していない	0	0%																				
合計	36	100%																				

IV 【達成度】

⁴ 四捨五入による合計であるため。

11)ビジョンの共有	<p>「みんなの学校づくり」のビジョンを共有することができたか」の質問に対して、「a. かなりよく共有できた」が 16 回答、「b.よく共有できた」が 17 回答を占め、「c.共有できた」3 回答あった。</p> <table border="1" data-bbox="560 264 1406 533"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a.かなりよく共有できた</td> <td>16</td> <td>44.5%</td> </tr> <tr> <td>b.よく共有できた</td> <td>17</td> <td>47.5%</td> </tr> <tr> <td>c.共有できた</td> <td>3</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>d.よく共有できていない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>e.まったく共有できていない。</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a.かなりよく共有できた	16	44.5%	b.よく共有できた	17	47.5%	c.共有できた	3	5.6%	d.よく共有できていない	0	0%	e.まったく共有できていない。	0	0%	合計	36	100%
	回答数	比率																				
a.かなりよく共有できた	16	44.5%																				
b.よく共有できた	17	47.5%																				
c.共有できた	3	5.6%																				
d.よく共有できていない	0	0%																				
e.まったく共有できていない。	0	0%																				
合計	36	100%																				
12) 住民による貢献	<p>「どのくらい「みんなの学校づくり」に貢献できたか。」の質問に対して「a. 非常に貢献した」としたものが 15 回答で「b. かなり貢献した」と回答したものが 19 回答である。「c. 貢献した」と回答した者が 2 名いた。</p> <table border="1" data-bbox="560 651 1406 920"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 非常に貢献した</td> <td>15</td> <td>41.7%</td> </tr> <tr> <td>b. かなり貢献した</td> <td>19</td> <td>52.8%</td> </tr> <tr> <td>c. 貢献した</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>d. あまり貢献していない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>e. まったく貢献していない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100.1%⁵</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 非常に貢献した	15	41.7%	b. かなり貢献した	19	52.8%	c. 貢献した	2	5.6%	d. あまり貢献していない	0	0%	e. まったく貢献していない	0	0%	合計	36	100.1% ⁵
	回答数	比率																				
a. 非常に貢献した	15	41.7%																				
b. かなり貢献した	19	52.8%																				
c. 貢献した	2	5.6%																				
d. あまり貢献していない	0	0%																				
e. まったく貢献していない	0	0%																				
合計	36	100.1% ⁵																				
13)参加による自信	<p>「さまざまな参加に対して自信を持つことができるようになったか。」の質問に対して「a.非常に自信を得た」が 15 回答、「b.かなり自信を得た」が 15 回答を占め、「c.まあまあ自信を得た」が 4 回答、「d.すこし自信を得た」が 2 回答あった。</p> <table border="1" data-bbox="560 1032 1406 1301"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a.非常に自信を得た</td> <td>15</td> <td>41.7%</td> </tr> <tr> <td>b.かなり自信を得た</td> <td>15</td> <td>41.7%</td> </tr> <tr> <td>c.まあまあ自信を得た</td> <td>4</td> <td>11.1%</td> </tr> <tr> <td>d.すこし自信を得た</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>e.まったく自信を得ていない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100.1%⁶</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a.非常に自信を得た	15	41.7%	b.かなり自信を得た	15	41.7%	c.まあまあ自信を得た	4	11.1%	d.すこし自信を得た	2	5.6%	e.まったく自信を得ていない	0	0%	合計	36	100.1% ⁶
	回答数	比率																				
a.非常に自信を得た	15	41.7%																				
b.かなり自信を得た	15	41.7%																				
c.まあまあ自信を得た	4	11.1%																				
d.すこし自信を得た	2	5.6%																				
e.まったく自信を得ていない	0	0%																				
合計	36	100.1% ⁶																				

IV 【コミュニティ開発への寄与】

14)コミュニティの問題に対する積極的な姿勢	<p>「協力すれば、身近な問題を自分たちで解決することができる」と積極的にになれるようになったか」の質問に対しては、「a. 非常に積極的な姿勢を持つようになった」が 13 回答、「b. かなり積極的な姿勢を持つようになった」が 20 回答を占めた。</p> <table border="1" data-bbox="560 1496 1406 1765"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 非常に積極的な姿勢を持つようになった</td> <td>13</td> <td>36.1%</td> </tr> <tr> <td>b. かなり積極的な姿勢を持つようになった</td> <td>20</td> <td>55.6%</td> </tr> <tr> <td>c. まあまあ積極的な姿勢を持つようになった</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>d. 少し積極的な姿勢を持つようになった</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>e. 消極的な姿勢を持つようになった</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100.1%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 非常に積極的な姿勢を持つようになった	13	36.1%	b. かなり積極的な姿勢を持つようになった	20	55.6%	c. まあまあ積極的な姿勢を持つようになった	1	2.8%	d. 少し積極的な姿勢を持つようになった	1	2.8%	e. 消極的な姿勢を持つようになった	1	2.8%	合計	36	100.1%
	回答数	比率																				
a. 非常に積極的な姿勢を持つようになった	13	36.1%																				
b. かなり積極的な姿勢を持つようになった	20	55.6%																				
c. まあまあ積極的な姿勢を持つようになった	1	2.8%																				
d. 少し積極的な姿勢を持つようになった	1	2.8%																				
e. 消極的な姿勢を持つようになった	1	2.8%																				
合計	36	100.1%																				

⁵四捨五入による合計であるため。

⁶四捨五入による合計であるため。

15)コミュニティの問題に対する積極的な行動	<p>「学校以外のコミュニティの問題についても、住民間で話し合っ解決するようになったか」の質問に対しては、「a. 問題を提起し、コミュニティ全体で積極的に解決しようと努力するようになった。」としたものが18回答を占め、「b. 問題を提起し、グループで解決しようとするようになった。」と回答したものが15回答である。</p>																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 問題を提起し、コミュニティ全体で積極的に解決しようと努力するようになった。</td> <td>18</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>b. 問題を提起し、グループで解決しようとするようになった。</td> <td>15</td> <td>41.6%</td> </tr> <tr> <td>c. 集まりに参加し、問題を解決するようになった。</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>d. 問題を知っているが、参加はしない。</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>e. 興味がない</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 問題を提起し、コミュニティ全体で積極的に解決しようと努力するようになった。	18	50.0%	b. 問題を提起し、グループで解決しようとするようになった。	15	41.6%	c. 集まりに参加し、問題を解決するようになった。	2	5.6%	d. 問題を知っているが、参加はしない。	2	5.6%	e. 興味がない	1	2.8%	合計	36	100%
	回答数	比率																				
a. 問題を提起し、コミュニティ全体で積極的に解決しようと努力するようになった。	18	50.0%																				
b. 問題を提起し、グループで解決しようとするようになった。	15	41.6%																				
c. 集まりに参加し、問題を解決するようになった。	2	5.6%																				
d. 問題を知っているが、参加はしない。	2	5.6%																				
e. 興味がない	1	2.8%																				
合計	36	100%																				
16)他の機関との交渉の能力向上	<p>「今後、コミュニティのために、行政や学校など諸機関と交渉するような能力が養われたか」に対し、「a. 非常によく交渉できるようになった」が11回答、「b. よく交渉できるようになった」が18回答、「c. 交渉できるようになった」が3回答、「d. あまり交渉できるようになっていない」が2回答、「e. まったく交渉できない」が2回答を占めた。</p>																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 非常によく交渉できるようになった</td> <td>11</td> <td>30.6%</td> </tr> <tr> <td>b. よく交渉できるようになった</td> <td>18</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>c. 交渉できるようになった</td> <td>3</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>d. あまり交渉できるようになっていない</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>e. まったく交渉できない</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100.1%⁷</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 非常によく交渉できるようになった	11	30.6%	b. よく交渉できるようになった	18	50.0%	c. 交渉できるようになった	3	8.3%	d. あまり交渉できるようになっていない	2	5.6%	e. まったく交渉できない	2	5.6%	合計	36	100.1% ⁷
	回答数	比率																				
a. 非常によく交渉できるようになった	11	30.6%																				
b. よく交渉できるようになった	18	50.0%																				
c. 交渉できるようになった	3	8.3%																				
d. あまり交渉できるようになっていない	2	5.6%																				
e. まったく交渉できない	2	5.6%																				
合計	36	100.1% ⁷																				
17) 能力向上	<p>「コミュニティ開発のために必要な意識、知識、技術といった能力がCOGES活動を通して養われたか。」の質問に対しては、「a.非常によく能力が養われた」としたものが12回答を占め、「b.かなりよく能力が養われた」と回答したものが21回答である。</p>																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a.非常によく能力が養われた</td> <td>12</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>b.かなりよく能力が養われた</td> <td>21</td> <td>58.3%</td> </tr> <tr> <td>c.まあまあ能力が養われた</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>d.少し能力が養われた</td> <td>2</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>e.まったく能力が養われていない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a.非常によく能力が養われた	12	33.3%	b.かなりよく能力が養われた	21	58.3%	c.まあまあ能力が養われた	1	2.8%	d.少し能力が養われた	2	5.6%	e.まったく能力が養われていない	0	0%	合計	36	100%
	回答数	比率																				
a.非常によく能力が養われた	12	33.3%																				
b.かなりよく能力が養われた	21	58.3%																				
c.まあまあ能力が養われた	1	2.8%																				
d.少し能力が養われた	2	5.6%																				
e.まったく能力が養われていない	0	0%																				
合計	36	100%																				
18)リーダーシップの醸成	<p>「コミュニティのためにリーダーシップをとっていく人材の育成に寄与したか」に対しては、「a. 非常に寄与した」が10回答、「b. かなり寄与した」が23回答を占めている。まったく寄与していないと回答したものは、伝統的な構造により選挙が民主的に実施できなかった村落の回答者である。</p>																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 非常に寄与した</td> <td>10</td> <td>27.8%</td> </tr> <tr> <td>b. かなり寄与した</td> <td>23</td> <td>63.9%</td> </tr> <tr> <td>c. まあまあ寄与した</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>d. 少し寄与した</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>e. まったく寄与していない</td> <td>1</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>36</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 非常に寄与した	10	27.8%	b. かなり寄与した	23	63.9%	c. まあまあ寄与した	1	2.8%	d. 少し寄与した	1	2.8%	e. まったく寄与していない	1	2.8%	合計	36	100%
	回答数	比率																				
a. 非常に寄与した	10	27.8%																				
b. かなり寄与した	23	63.9%																				
c. まあまあ寄与した	1	2.8%																				
d. 少し寄与した	1	2.8%																				
e. まったく寄与していない	1	2.8%																				
合計	36	100%																				

⁷四捨五入による合計であるため。

B) ザンビアの事例

住民参加の効果を測る調査の実施と調査結果

I. 住民参加の効果を測る調査の目的

- 1) 住民参加のアプローチを取り入れているザンビア孤立地域参加型農村開発計画における住民参加の役割とインパクトを確認する。
- 2) 住民参加やエンパワメント評価する際に、必要な視点や手法について取りまとめることが本調査の目的の一つでもあり、その試みを行い、最後の取りまとめの際に必要な提言を行う。

II. 住民参加の効果を測る調査の実施の意義

- 1) 今回のテーマ評価では、プロジェクトへのフィードバックが一つの役割でもあり、住民参加の効果を測る調査の結果の記録を残すことはその役割を満たすことになる。
- 2) JICA の案件でも住民参加の効果を測る調査を実施したものは少なく、本件でエンパワメント調査を含む住民参加の効果を測る調査を行うことは、事例としての意義がある。
- 3) 最小限に絞ったサンプル数と調査項目により、簡易迅速型の住民参加の効果を測る調査を実施し、その実施の有効性を見る。

III. 住民参加の効果を測る調査の全体概要

- 1) 方法
口述聞き取りによるアンケート票回答方式
- 2) 対象者
対象者はマイクロプロジェクト活動をおこなっている 3 村落における住民 33 人(男性 17 人女性 16 人)に対して行われた。対象となった 3 村落は調査団が訪問した村落である。
- 3) 実施者
ローカルコンサルタントが住民参加の効果を測る調査を実施した。
- 4) 使用言語
聞き取りの際の使用言語は、英語またはニャンジャ語。アンケート調査票は英文にて用意。最終成果のアンケート回答票の回答を入れたデータシートはローカルコンサルタントが作成。調査結果分析は本邦コンサルタントが行った。

IV. 実施方法

質問項目はなるべく簡潔にし、回答は定量的に答えられるように 5 段階でレーティングした。聞き取りを行った際には、委託したローカル調査員が、気づきや発見などの所感、大切と思われる村人の自由意見などを書き残すようにし、全体的な状況の把握ができるようにした。

V. 調査結果

【調査票回答者：住民 33 人の回答者】

住民からの回答の分析結果例

I 【計画づくりと実施】

01)計画づくりにおける優先の度合い	「計画した活動は村落における問題解決としてどの程度優先されて選ばれたか」の質問に対して「a. 非常に優先された」が 26 回答、「b. かなり優先された」が 7 回答を占め、計画が優先されたと全般的に回答している。																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 非常に優先された</td> <td>26</td> <td>78.8%</td> </tr> <tr> <td>b. かなり優先された</td> <td>7</td> <td>21.2%</td> </tr> <tr> <td>c. それなりに優先された</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>d. 少し優先された</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>e. まったく優先されていない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 非常に優先された	26	78.8%	b. かなり優先された	7	21.2%	c. それなりに優先された	0	0%	d. 少し優先された	0	0%	e. まったく優先されていない	0	0%	合計	33	100.0%
	回答数	比率																				
a. 非常に優先された	26	78.8%																				
b. かなり優先された	7	21.2%																				
c. それなりに優先された	0	0%																				
d. 少し優先された	0	0%																				
e. まったく優先されていない	0	0%																				
合計	33	100.0%																				
02)参加の度合い	「どのくらいの人が活動に参加したか」の質問に対して、「a. 80%以上」としたものが 21 回答、「b. 60-79%」と回答したものが 6 回答である。「c. 50-59%」が 2 回答。「d. 半分に満たない」が 4 回答であり、「a. 80%以上」と答えた回答者の多くは、計画が最もうまく運営管理されている村落の回答者である。																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 80%以上</td> <td>21</td> <td>63.6%</td> </tr> <tr> <td>b. 60-79%</td> <td>6</td> <td>18.2%</td> </tr> <tr> <td>c. 50-59%</td> <td>2</td> <td>6.0%</td> </tr> <tr> <td>d. 半分に満たない</td> <td>4</td> <td>12.1%</td> </tr> <tr> <td>e. わからない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33</td> <td>99.9%⁸</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 80%以上	21	63.6%	b. 60-79%	6	18.2%	c. 50-59%	2	6.0%	d. 半分に満たない	4	12.1%	e. わからない	0	0%	合計	33	99.9% ⁸
	回答数	比率																				
a. 80%以上	21	63.6%																				
b. 60-79%	6	18.2%																				
c. 50-59%	2	6.0%																				
d. 半分に満たない	4	12.1%																				
e. わからない	0	0%																				
合計	33	99.9% ⁸																				
03)活動の意思決定のプロセスの理解	「どの程度活動の意思決定のプロセスを知っているか」の質問に対して、「a. かなりよく知っている」としたものが 21 回答、「b. よく知っている」と回答したものが 1 回答である。「c. 知っている」が 6 回答。「d. あまりよく知らない」が 1 回答、「e. まったく知らない」が 4 回答あった。d.と e.を答えたものは、計画が途中で継続できなかった村と計画が中断した村の住民である。																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. かなりよく知っている</td> <td>21</td> <td>63.6%</td> </tr> <tr> <td>b. よく知っている</td> <td>1</td> <td>3.0%</td> </tr> <tr> <td>c. 知っている</td> <td>6</td> <td>18.2%</td> </tr> <tr> <td>d. あまりよく知らない</td> <td>1</td> <td>3.0%</td> </tr> <tr> <td>e. まったく知らない</td> <td>4</td> <td>12.1%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33</td> <td>99.9%⁹</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. かなりよく知っている	21	63.6%	b. よく知っている	1	3.0%	c. 知っている	6	18.2%	d. あまりよく知らない	1	3.0%	e. まったく知らない	4	12.1%	合計	33	99.9% ⁹
	回答数	比率																				
a. かなりよく知っている	21	63.6%																				
b. よく知っている	1	3.0%																				
c. 知っている	6	18.2%																				
d. あまりよく知らない	1	3.0%																				
e. まったく知らない	4	12.1%																				
合計	33	99.9% ⁹																				

⁸四捨五入による合計であるため。⁹四捨五入による合計であるため。

II 【維持管理計画】

04)維持管理の可能性	<p>「あなたのコミュニティは外部の支援がなくても施設の維持ができるか」の質問に対して、「a. 絶対に維持管理できる」としたものが14回答、「b. それなりに維持管理できる」と回答したものが12回答である。「c. あまりできない」が6回答。「d. 維持管理は難しい」が1回答あった。維持管理が難しいクリニックを建てた村の回答者は、c.もしくはd.を答えている。</p>																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 絶対に維持管理できる</td> <td>14</td> <td>42.4%</td> </tr> <tr> <td>b. それなりに維持管理できる</td> <td>12</td> <td>36.4%</td> </tr> <tr> <td>c. あまりできない</td> <td>6</td> <td>18.2%</td> </tr> <tr> <td>d. 維持管理は難しい</td> <td>1</td> <td>3.0%</td> </tr> <tr> <td>e. わからない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 絶対に維持管理できる	14	42.4%	b. それなりに維持管理できる	12	36.4%	c. あまりできない	6	18.2%	d. 維持管理は難しい	1	3.0%	e. わからない	0	0%	合計	33	100.0%			
	回答数	比率																							
a. 絶対に維持管理できる	14	42.4%																							
b. それなりに維持管理できる	12	36.4%																							
c. あまりできない	6	18.2%																							
d. 維持管理は難しい	1	3.0%																							
e. わからない	0	0%																							
合計	33	100.0%																							
05)維持管理組織の有無	<p>「維持管理の組織または委員会があるかどうか」の質問に対して、「a.ある」としたものが22回答、「b.ない」と回答したものが7回答である。「c. わからない」が4回答あった。</p>																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. ある</td> <td>22</td> <td>66.7%</td> </tr> <tr> <td>b. ない</td> <td>7</td> <td>21.2%</td> </tr> <tr> <td>c. わからない</td> <td>4</td> <td>12.1%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. ある	22	66.7%	b. ない	7	21.2%	c. わからない	4	12.1%	合計	33	100.0%									
	回答数	比率																							
a. ある	22	66.7%																							
b. ない	7	21.2%																							
c. わからない	4	12.1%																							
合計	33	100.0%																							
06)維持管理組織の機能	<p>「維持管理組織は十分機能しているか」の質問に対して、「a 絶対に維持管理できる」としたものが7回答、「b. それなりに維持管理できる」と回答したものが12回答である。「c. あまりできない」が0回答。「d. 維持管理は難しい」4回答、「e. わからない」が3回答あった。無回答は7回答あった。d.と答えたものはクリニックを計画した村の者であった。</p>																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 絶対に維持管理できる</td> <td>7</td> <td>21.2%</td> </tr> <tr> <td>b. それなりに維持管理できる</td> <td>12</td> <td>36.4%</td> </tr> <tr> <td>c. あまりできない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>d. 維持管理は難しい</td> <td>4</td> <td>12.1%</td> </tr> <tr> <td>e. わからない</td> <td>3</td> <td>9.1%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>7</td> <td>21.2%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33</td> <td>100.1%¹⁰</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 絶対に維持管理できる	7	21.2%	b. それなりに維持管理できる	12	36.4%	c. あまりできない	0	0%	d. 維持管理は難しい	4	12.1%	e. わからない	3	9.1%	無回答	7	21.2%	合計	33	100.1% ¹⁰
	回答数	比率																							
a. 絶対に維持管理できる	7	21.2%																							
b. それなりに維持管理できる	12	36.4%																							
c. あまりできない	0	0%																							
d. 維持管理は難しい	4	12.1%																							
e. わからない	3	9.1%																							
無回答	7	21.2%																							
合計	33	100.1% ¹⁰																							
07)口座の管理	<p>「透明性を確保し的確に口座の管理ができるか」の質問に対し、「a. かなり管理できる」としたものが7回答、「b. それなりに管理できる」が3回答である。「c. すこし管理できる」が8回答。「d. まったく管理できない」と「e. わからない」が1回答ずつあった。a.と多く答えているのは、結束力や管理能力の高い村である。</p>																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. かなり管理できる</td> <td>7</td> <td>21.2%</td> </tr> <tr> <td>b. それなりに管理できる</td> <td>3</td> <td>9.1%</td> </tr> <tr> <td>c. すこし管理できる</td> <td>8</td> <td>24.2%</td> </tr> <tr> <td>d. まったく管理できない</td> <td>3</td> <td>9.1%</td> </tr> <tr> <td>e. わからない</td> <td>12</td> <td>36.4%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. かなり管理できる	7	21.2%	b. それなりに管理できる	3	9.1%	c. すこし管理できる	8	24.2%	d. まったく管理できない	3	9.1%	e. わからない	12	36.4%	合計	33	100.0%			
	回答数	比率																							
a. かなり管理できる	7	21.2%																							
b. それなりに管理できる	3	9.1%																							
c. すこし管理できる	8	24.2%																							
d. まったく管理できない	3	9.1%																							
e. わからない	12	36.4%																							
合計	33	100.0%																							

¹⁰四捨五入による合計であるため。

III【達成度】

08)考え方の共有	「活動開始後、課題に対する考え方など隣人とともに意見交換をしたか」に対する回答として、「a. いつもした」が6回答、「しばしばした」が7回答を占め、「c. 時々した」8回答あった。																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. いつもした</td> <td>6</td> <td>18.2%</td> </tr> <tr> <td>b. しばしばした</td> <td>7</td> <td>21.1%</td> </tr> <tr> <td>c. 時々した</td> <td>8</td> <td>24.2%</td> </tr> <tr> <td>d. めったにしない</td> <td>3</td> <td>9.1%</td> </tr> <tr> <td>e. 決してしない</td> <td>9</td> <td>27.3%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33</td> <td>99.9%¹¹</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. いつもした	6	18.2%	b. しばしばした	7	21.1%	c. 時々した	8	24.2%	d. めったにしない	3	9.1%	e. 決してしない	9	27.3%	合計	33	99.9% ¹¹
	回答数	比率																				
a. いつもした	6	18.2%																				
b. しばしばした	7	21.1%																				
c. 時々した	8	24.2%																				
d. めったにしない	3	9.1%																				
e. 決してしない	9	27.3%																				
合計	33	99.9% ¹¹																				
09) 自分たちのリソースの活用	自分たちのリソース(地元の資材や労働)の活用についての質問に対しては、「a. かなり活用した」としたものが26回答で、「b. 適度に活用した」と回答したものが6回答である。																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. かなり活用した</td> <td>26</td> <td>78.8%</td> </tr> <tr> <td>b. 適度に活用した</td> <td>6</td> <td>18.2%</td> </tr> <tr> <td>c. 少し活用した</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>d. まったく活用していない</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>e. わからない</td> <td>1</td> <td>3.0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. かなり活用した	26	78.8%	b. 適度に活用した	6	18.2%	c. 少し活用した	0	0%	d. まったく活用していない	0	0%	e. わからない	1	3.0%	合計	33	100.0%
	回答数	比率																				
a. かなり活用した	26	78.8%																				
b. 適度に活用した	6	18.2%																				
c. 少し活用した	0	0%																				
d. まったく活用していない	0	0%																				
e. わからない	1	3.0%																				
合計	33	100.0%																				
10)活動や成果に対する満足度	活動や成果に対する満足度として、「a.満足度はとても高い」が10回答、「満足度は高い」が11回答を占め、「c. 満足度は中ぐらい」が8回答あった。d.とe.と回答したものは、ヘルスセンターのサービスが受けられるように計画していた村落の回答者である。																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 満足度はとても高い</td> <td>10</td> <td>30.3%</td> </tr> <tr> <td>b. 満足度は高い</td> <td>11</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>c. 満足度は中ぐらい</td> <td>8</td> <td>24.2%</td> </tr> <tr> <td>d. 低い</td> <td>2</td> <td>6.1%</td> </tr> <tr> <td>e. とても低い</td> <td>2</td> <td>6.1%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 満足度はとても高い	10	30.3%	b. 満足度は高い	11	33.3%	c. 満足度は中ぐらい	8	24.2%	d. 低い	2	6.1%	e. とても低い	2	6.1%	合計	33	100.0%
	回答数	比率																				
a. 満足度はとても高い	10	30.3%																				
b. 満足度は高い	11	33.3%																				
c. 満足度は中ぐらい	8	24.2%																				
d. 低い	2	6.1%																				
e. とても低い	2	6.1%																				
合計	33	100.0%																				
11) 活動に対する貢献	活動に対する貢献については、「a. 貢献はとても大きい」としたものが19回答を占め、「b. 貢献は大きい」と回答したものが5回答である。「c. 貢献はほどほど」と回答した者が4回答あった。貢献度が低いと回答している者が多い村は途中で計画が中断した村である。																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 貢献はとても大きい</td> <td>19</td> <td>57.6%</td> </tr> <tr> <td>b. 貢献は大きい</td> <td>5</td> <td>15.2%</td> </tr> <tr> <td>c. 貢献はほどほど</td> <td>4</td> <td>12.1%</td> </tr> <tr> <td>d. 貢献は低い</td> <td>3</td> <td>9.1%</td> </tr> <tr> <td>e. 貢献はとても低い</td> <td>2</td> <td>6.1%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33</td> <td>100.1%¹²</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 貢献はとても大きい	19	57.6%	b. 貢献は大きい	5	15.2%	c. 貢献はほどほど	4	12.1%	d. 貢献は低い	3	9.1%	e. 貢献はとても低い	2	6.1%	合計	33	100.1% ¹²
	回答数	比率																				
a. 貢献はとても大きい	19	57.6%																				
b. 貢献は大きい	5	15.2%																				
c. 貢献はほどほど	4	12.1%																				
d. 貢献は低い	3	9.1%																				
e. 貢献はとても低い	2	6.1%																				
合計	33	100.1% ¹²																				

¹¹四捨五入による合計であるため。

¹²四捨五入による合計であるため。

12) 問題解決への寄与	コミュニティの問題解決に対する活動の貢献については、「a. 問題がかなりよく解決した」としたものが 14 回答を占め、「b. 問題がよく解決した」と回答したものが 9 回答である。「c. 問題がある程度解決した」と回答した者が 4 人いた。																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 問題がかなりよく解決した</td> <td>14</td> <td>42.4%</td> </tr> <tr> <td>b. 問題がよく解決した</td> <td>9</td> <td>27.3%</td> </tr> <tr> <td>c. 問題がある程度解決した</td> <td>4</td> <td>12.1%</td> </tr> <tr> <td>d. 問題がすこし解決した</td> <td>3</td> <td>9.0%</td> </tr> <tr> <td>e. まったく解決していない</td> <td>2</td> <td>6.1%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>1</td> <td>3.0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33</td> <td>99.9%¹³</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 問題がかなりよく解決した	14	42.4%	b. 問題がよく解決した	9	27.3%	c. 問題がある程度解決した	4	12.1%	d. 問題がすこし解決した	3	9.0%	e. まったく解決していない	2	6.1%	無回答	1	3.0%	合計	33
	回答数	比率																						
a. 問題がかなりよく解決した	14	42.4%																						
b. 問題がよく解決した	9	27.3%																						
c. 問題がある程度解決した	4	12.1%																						
d. 問題がすこし解決した	3	9.0%																						
e. まったく解決していない	2	6.1%																						
無回答	1	3.0%																						
合計	33	99.9% ¹³																						

IV 【コミュニティ開発への寄与】

13) 村落での脆弱層に対する恩恵	「村落で活動の利益や効果が脆弱層に及んでいるか」の質問に対しては、「a. とても及んでいる」が 5 回答、「b. 相対的に及んでいる」が 8 回答を占めた。「c. ほどほどに及んでいる」が 8 回答、「d. すこし及んでいる」8 回答であった。脆弱者層への影響は、結果的に及んでいると回答している場合がほとんどでその程度の認識はさまざまである。とてもよく及んでいると答えた 5 回答者は参加や運営がうまくいっている村の回答者であった。																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. とても及んでいる</td> <td>5</td> <td>15.2%</td> </tr> <tr> <td>b. 相対的に及んでいる</td> <td>8</td> <td>24.2%</td> </tr> <tr> <td>c. ほどほどに及んでいる</td> <td>8</td> <td>24.2%</td> </tr> <tr> <td>d. すこし及んでいる</td> <td>8</td> <td>24.2%</td> </tr> <tr> <td>e. まったく</td> <td>3</td> <td>9.1%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>1</td> <td>3.0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. とても及んでいる	5	15.2%	b. 相対的に及んでいる	8	24.2%	c. ほどほどに及んでいる	8	24.2%	d. すこし及んでいる	8	24.2%	e. まったく	3	9.1%	無回答	1	3.0%	合計	33
	回答数	比率																						
a. とても及んでいる	5	15.2%																						
b. 相対的に及んでいる	8	24.2%																						
c. ほどほどに及んでいる	8	24.2%																						
d. すこし及んでいる	8	24.2%																						
e. まったく	3	9.1%																						
無回答	1	3.0%																						
合計	33	100.0%																						
14) 新しいリーダーの育成	「マイクロプロジェクトは、コミュニティの開発の新しいリーダーを育成することに寄与したか」の質問に対しては、「a. 非常に寄与した」としたものが 11 回答を占め、「b. かなり寄与した」と回答したものが 9 回答である。「c. 寄与した」が 5 回答あり、全般的にリーダーの育成に寄与したと感じているものが、75.8%で、指導者の育成に寄与している結果が判明した。寄与していないと答えている回答者は計画が中断した村の回答者である。																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 非常に寄与した</td> <td>11</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>b. かなり寄与した</td> <td>9</td> <td>27.3%</td> </tr> <tr> <td>c. 寄与した</td> <td>5</td> <td>15.2%</td> </tr> <tr> <td>d. あまり寄与していない</td> <td>4</td> <td>12.1%</td> </tr> <tr> <td>e. 寄与していない</td> <td>4</td> <td>12.1%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 非常に寄与した	11	33.3%	b. かなり寄与した	9	27.3%	c. 寄与した	5	15.2%	d. あまり寄与していない	4	12.1%	e. 寄与していない	4	12.1%	合計	33	100.0%		
	回答数	比率																						
a. 非常に寄与した	11	33.3%																						
b. かなり寄与した	9	27.3%																						
c. 寄与した	5	15.2%																						
d. あまり寄与していない	4	12.1%																						
e. 寄与していない	4	12.1%																						
合計	33	100.0%																						

¹³四捨五入による合計であるため。

<p>15)地域の発展に対する積極的志向</p>	<p>「マイクロプロジェクトの活動の経験を基に新しいコミュニティのための活動をする努力や論議があるか」に対しては、「a. 大変ある」が7回答、「b. かなりある」が8回答を占め、「c. ある程度ある」が3回答、「d. 少しある」が2回答。「e. まったくない」が13回答でもっとも多い回答数である。</p>																					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;"></th> <th style="width: 15%; text-align: center;">回答数</th> <th style="width: 15%; text-align: center;">比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 大変ある</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">21.2%</td> </tr> <tr> <td>b. かなりある</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">24.2%</td> </tr> <tr> <td>c. ある程度ある</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">9.1%</td> </tr> <tr> <td>d. 少しある</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">6.1%</td> </tr> <tr> <td>e. まったくない</td> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">39.4%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">33</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 大変ある	7	21.2%	b. かなりある	8	24.2%	c. ある程度ある	3	9.1%	d. 少しある	2	6.1%	e. まったくない	13	39.4%	合計	33	100.0%	<p>「コミュニティの問題解決のために地方政府と交渉する能力が向上したか。養われたか。」の質問に対しては、「e. まったく養われていない」としたものが18回答を占め、「d. 少し能力が養われた」と回答したものが5回答、「c. ある程度養われた」が5回答。「b. かなりよく能力が養われた」1回答、「a. 非常によく能力が養われた」が4回答。これらの回答は特に特定の村の回答者によるものではなくばらつきがある。地方政府との交渉能力の向上は、他の項目よりも達成が難しいことが結果として明らかである。</p>
	回答数	比率																				
a. 大変ある	7	21.2%																				
b. かなりある	8	24.2%																				
c. ある程度ある	3	9.1%																				
d. 少しある	2	6.1%																				
e. まったくない	13	39.4%																				
合計	33	100.0%																				
<p>16)地方政府との交渉能力</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;"></th> <th style="width: 15%; text-align: center;">回答数</th> <th style="width: 15%; text-align: center;">比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 非常によく能力が養われた</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">12.1%</td> </tr> <tr> <td>b. かなりよく能力が養われた</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">3.0%</td> </tr> <tr> <td>c. ある程度養われた</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">15.2%</td> </tr> <tr> <td>d. 少し能力が養われた</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">15.1%</td> </tr> <tr> <td>e. まったく養われていない</td> <td style="text-align: center;">18</td> <td style="text-align: center;">54.5%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">33</td> <td style="text-align: center;">99.9¹⁴⁾%</td> </tr> </tbody> </table>		回答数	比率	a. 非常によく能力が養われた	4	12.1%	b. かなりよく能力が養われた	1	3.0%	c. ある程度養われた	5	15.2%	d. 少し能力が養われた	5	15.1%	e. まったく養われていない	18	54.5%	合計	33	99.9 ¹⁴⁾ %
	回答数	比率																				
a. 非常によく能力が養われた	4	12.1%																				
b. かなりよく能力が養われた	1	3.0%																				
c. ある程度養われた	5	15.2%																				
d. 少し能力が養われた	5	15.1%																				
e. まったく養われていない	18	54.5%																				
合計	33	99.9 ¹⁴⁾ %																				

¹⁴⁾四捨五入による合計であるため。